

Windows® 8 Pro

インストール補足説明書

Express5800/55Xa,Y55Xa、Express5800/53Xh,Y53Xh、
Express5800/51Eb,Y51Eb

Microsoft、Windows、Hyper-V、.NET Framework は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、TM、® は必ずしも明記しておりません。本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

無断転載を禁じます。

本書または本書に記述されている製品や技術に関して、日本電気株式会社またはその関連会社が行う保証については、当該製品または技術の提供に適用されるライセンス契約が適用されます。

○ 本書で使う表記

本文中で使用するこれらの記号は、次のような意味があります。



ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。記載の手順にしたがわないときは、ハードウェアの故障、データの損失など、重大な不具合が起きるおそれがあります。



ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。



知っておくと役にたつ情報、便利なことについて示しています。

○ 本書に掲載の「光ディスクドライブ」について

本書では、次のドライブを「光ディスクドライブ」と記載しています。
サポートするドライブは、購入されたモデルによって異なります。

1. DVD-ROM ドライブ
2. DVD Super MULTI ドライブ
3. Blu-ray ディスクドライブ

目次

0 はじめに.....	4
■ 対象モデル	4
■ インストール可能な Windows OS.....	4
■ BIOS について	4
■ Windows 8 のインストールについて	4
1 概略.....	5
2 インストール前の準備.....	6
■ インストールに必要なもの.....	6
■ サポートしている大容量記憶装置コントローラ	6
■ ダウンロードについて	7
3 インストール前の確認事項.....	8
4 Windows 8 のインストール	15
5 Starter Pack の適用.....	23
6 AMT ドライバのインストール.....	26
■ Express5800/55Xa, Y55Xa の場合	26
■ Express5800/53Xh, Y53Xh, 51Eb, Y51Eb の場合.....	31
7 デバイスドライバのセットアップ.....	34
■ LAN ドライバ.....	34
■ グラフィックスアクセラレータドライバ.....	35
■ サウンドドライバ.....	35
8 ライセンス認証の手続き	36
9 障害処理のためのセットアップ	38
■ メモリダンプ(デバッグ情報)の設定	38
■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法	44
10 トラブルシューティング	45
11 Windows イベントログ一覧.....	46

0 はじめに

本手順書は、Express5800 シリーズで使用するオペレーティングシステムをインストールする方法について説明しています。

Windows 8 Pro をセットアップする前に、必ず最後までお読みください。

■ 対象モデル

本手順書は、次のモデルをサポートしています。

モデル名	Express5800/55Xa,Y55Xa
	Express5800/53Xh,Y53Xh
	Express5800/51Eb,Y51Eb

■ インストール可能な Windows OS

以下の Windows OS(エディション)をサポートしています。

本書の表記	Windows OS の名称
Windows 8	Windows 8 Pro (64 ビット版)
	Windows 8 Pro (32 ビット版)

■ BIOS について

本書では、uEFI 環境へのインストールはサポートしていません。

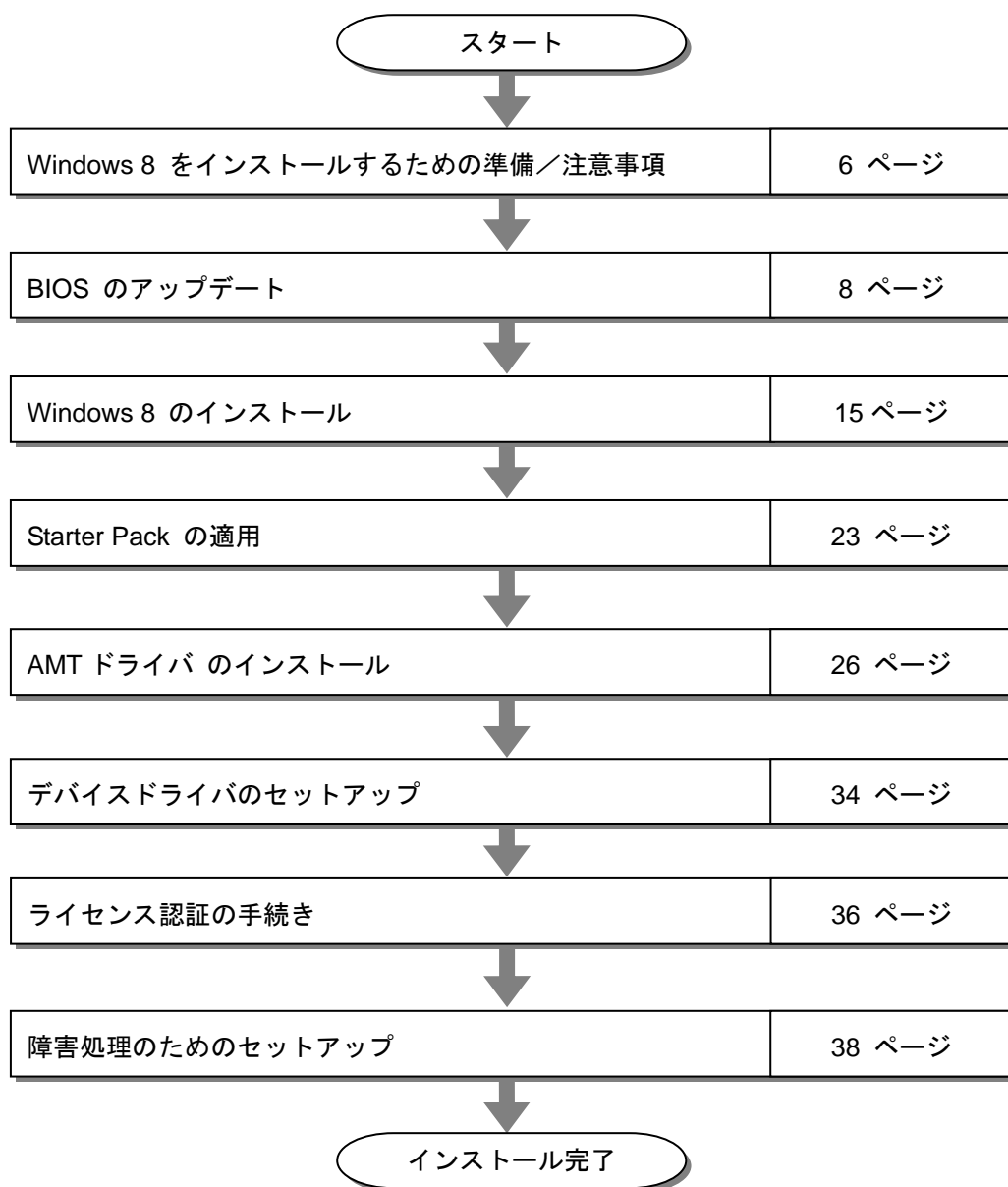
■ Windows 8 のインストールについて

Windows 8 をご使用になる場合は、本書「Windows 8 のインストール」を参照し、事前に必要なユーザーデータのバックアップをとり、新規にインストールしてください。

旧 OS に上書きインストールする方法 (インプレースアップグレード) は、ファイルやレジストリを上書きすることがあり、システムやアプリケーションへ思わぬ影響を与える可能性があるのでサポートしていません。

1 概略

Windows 8 をインストールするときは、次の図を参考に新規インストールを実施してください。



OS インストール完了後、各種アプリケーションのインストールが必要な場合はそれぞれのインストールレーションガイド(手順書)を参照しインストールを行ってください。

2 インストール前の準備

Windows 8 のインストールを開始する前に、ハードディスク環境(ディスクアレイのコンフィグレーション情報など)を装置に添付の EXPRESSBUILDER からドキュメント(ユーザーズガイドなど)を参照のうえ確認してください。

■ インストールに必要なもの

次のモジュールと手順書がそろっていることを確認してください。

- **Windows 8 Pro 対応 差分モジュール**(以降、「Starter Pack」と呼ぶ)

差分モジュール名	Win8.50-001.01.zip
対象モデル	Express5800/55Xa,Y55Xa
	Express5800/53Xh,Y53Xh
	Express5800/51Eb,Y51Eb

- **Microsoft 社製 OS インストールメディア** ※別途購入が必要です。
(以降、「Windows 8 DVD-ROM」と呼ぶ)
- **Windows® 8 Pro インストール補足説明書** (本書)
- Express5800 シリーズをお買い上げのときに添付されているもの
- **EXPRESSBUILDER DVD**
(以降、「EXPRESSBUILDER」と呼ぶ)



- Starter Pack は、本書の「■ダウンロードについて」を参照してください。Starter Pack を DVD などにコピーする場合は必要なメディアをご用意ください。
- ドキュメントは、EXPRESSBUILDER に収められています。EXPRESSBUILDER のメニュー画面から「→ドキュメントを読む」を参照してください。

■ サポートしている大容量記憶装置コントローラ

Starter Pack でサポートしている大容量記憶装置コントローラは、以下になります。

	55Xa,Y55Xa	53Xh,Y53Xh	51Eb,Y51Eb
N8103-150 RAID コントローラ (512KB、RAID 0/1/5/6)	○	—	—
N8103-151 RAID コントローラ (1GB、RAID 0/1/5/6)	○	—	—

- : サポート対象
— : サポート対象外



上記 RAID コントローラ以外はサポートしていません。

■ ダウンロードについて

あらかじめ本機対応の差分モジュール(Starter Pack)を、次の URL からダウンロードしてください。

『NEC コーポレートサイト』 <http://jpn.nec.com/>

<ダウンロード方法>

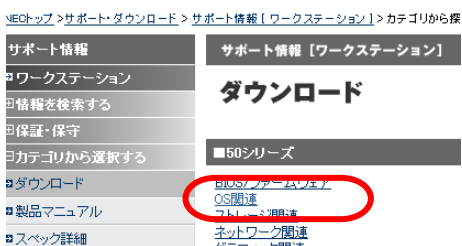
- ① 『NEC コーポレートサイト』
(<http://jpn.nec.com/>)から、
[サポート・ダウンロード]—[> ドライバ・ソフトウェア]をクリックします。



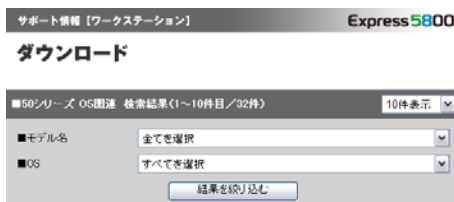
- ② [ドライバ・ソフトウェア]から[法人向け製品]—[ワークステーション(Express5800シリーズ)]をクリックします。



- ③ [ダウンロード]ページから
[■ 50 シリーズ]—[OS 関連]をクリックします。



- ④ 検索画面から[Windows 8]を検索します。



- ⑤ [Windows 8 サポート情報]から該当するモデルのサポートキットを参照し、モジュールを入手します。

ダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダ（例：C:\TEMP）に解凍します。
解凍先のフォルダには、2バイト文字や空白文字（スペース）を含むフォルダは指定できません。



フォルダの階層が深すぎるとセットアッププログラムの解凍が正しく実行されないことがあります。

DVD などにコピーする場合は、解凍したファイル・フォルダ構造のままコピーします。

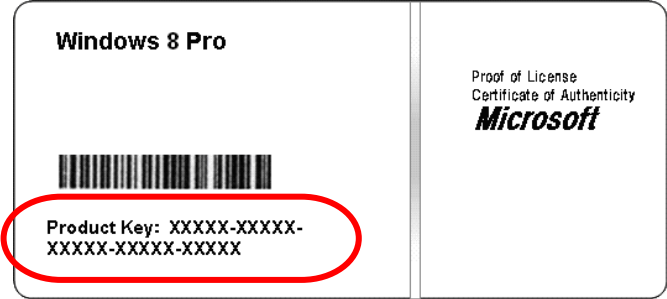



DVD をご使用の場合は、Windows でアクセスできる形式（OS 標準機能など）で書き込みしてください。

モジュールのコピーが完了したら、ハードディスクドライブ上へ解凍したファイル・フォルダはすべて削除してください。

3 インストール前の確認事項

Windows 8 をインストールする前に、ここで説明する注意事項について確認しておいてください。

確 認 事 項	
ライセンス認証の手続きについて	<p>Windows 8 のライセンス認証を行う際に使用するプロダクトキーは、COA(Certificate of Authenticity)ラベルに記載されたプロダクトキーと一致させる必要があります。</p> <p>Windows 8 の COA ラベルは購入された OS インストールメディアのパッケージに貼付されています。</p> <p>本書の「8 ライセンス認証の手続き」を参照し、確認してください。</p> 
「Starter Pack の適用」について	<p>Starter Pack は Express5800 シリーズに必要なドライバを適用します。必ず Starter Pack を適用してください。</p>
BIOS のアップデート	<p>Windows 8 をインストールするために、BIOS のアップデートが必要な場合があります。</p> <p>BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC コーポレートサイト』— [サポート情報 [ワークステーション]] http://support.express.nec.co.jp/workstation/ から、対応モジュールの有無を確認しておいてください。</p> <p>また、アップデート手順に関しては、各装置の BIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。</p>
注意すべきハードウェア構成	<p>次のようなハードディスク構成においては特殊な手順が必要です。</p> <p>論理ドライブが複数存在するときのセットアップ</p> <p>Windows 8 をインストールするとき、パーティション作成画面に表示されるディスクの順番および番号は、本機のスロット位置と一致しないことがあります。インストール先は、表示されるハードディスクドライブの容量やパーティションのサイズで判別してください。</p> <p>ハードディスクドライブの選択を誤った場合、意図せず既存のデータを削除する可能性があります。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 重要 詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/937251/ja</p> </div> <p>ミラー化されているボリュームへのインストール</p> <p>Windows の機能を使ってミラーボリュームを作成した環境へインストールするときは、いったんミラーボリュームを無効にしてベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。</p> <p>ミラーボリュームの作成、解除、および削除は、[コンピュータの管理] — [ディスクの管理] を使います。</p>

RDX/MO などの周辺機器

インストール時、RDX/MO 装置は取り外してください。その他、周辺機器によっては休止状態にする必要があります。それぞれの周辺機器の説明書を参照し、適切な状態にしてからセットアップしてください。

DAT や LTO 等のメディア

インストール時、DAT や LTO 等のメディアはセットしないでください。

大容量メモリ搭載時のセットアップ

大容量のメモリを搭載するとインストールのときに必要なページングファイルサイズが大きくなり、デバッグ情報(ダンプファイル)採取のためのパーティションサイズが確保できないことがあります。

ダンプファイルサイズを確保できないときは、新規インストールを実施し、次のようにデバッグ情報を書き込む場所を別のハードディスクドライブに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定します。
2. 本書の「9 障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のハードディスクドライブに書き込むように設定します。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがハードディスクドライブにないときは「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいハードディスクドライブを増設してください。



チェック

Windows をインストールするパーティションのサイズが「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さいときは、パーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ページングファイルサイズを確保できないときは、新規インストール後に、以下のいずれかの設定を行って下さい。

●メモリダンプの採取に使用するページングファイルをシステムドライブ以外のドライブに設定する

システムドライブ以外のドライブに搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイルを作成します。

ドライブ文字 C、D、E … の順に、ドライブに最初に存在したページングファイルがメモリダンプを採取するための一時的な保存先として使用されます。そのため、最初に存在するページングファイルのサイズは、搭載メモリサイズ+400MB 以上となっている必要があります。ダイナミックボリュームのページングファイルはメモリダンプ採取に使用されません。設定の反映には再起動が必要です。

【正しい設定例】

C : ページングファイルなし
D : 搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイル

→ D ドライブのページングファイルが搭載メモリサイズ+400MB 以上であるため、D ドライブのページングファイルを使用してメモリダンプを採取できます。

【誤った設定例 1】

C : 搭載メモリサイズ未満のページングファイル
D : 搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイル

→ C ドライブのページングファイルがメモリダンプ採取に使用されますが、ページングファイルサイズが搭載メモリサイズ未満のためメモリダンプを採取できない場合があります。

【誤った設定例 2】

C : 搭載メモリサイズ×0.5 のページングファイル
D : 搭載メモリサイズ×0.5 のページングファイル
E : 400MB のページングファイル

→ 全ドライブのページングファイルの合計は搭載メモリサイズ+400MB ですが、C ドライブのページングファイルのみメモリダンプ採取に使用されるため、メモリダンプを採取できない場合があります。

【誤った設定例 3】

C : ページングファイルなし
D : 搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイル
(ダイナミックボリューム)

→ D ドライブはダイナミックボリュームのため、D ドライブのページングファイルはダンプ採取に使用されず、メモリダンプを採取できません。

●システムドライブ以外のドライブに Dedicated Dump File を設定する

レジストリエディタにて以下のレジストリを作成し、Dedicated Dump File のファイル名を設定します。

<D ドライブに「dedicateddumpfile.sys」というファイル名を設定する場合>

キー	: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM ¥CurrentControlSet¥Control¥CrashControl
名前	: DedicatedDumpFile
種類	: REG_SZ
データ	: D:¥dedicateddumpfile.sys

Dedicated Dump File については、以下について注意のうえ設定してください。

- レジストリの編集には十分にご注意ください。
- 設定の反映には再起動が必要です。
- 搭載メモリサイズ +400MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- ダイナミックボリュームに Dedicated Dump File を設定できません。
- Dedicated Dump File を使用してメモリダンプを採取するには、いずれかのドライブにページングファイルが必要です。
- Dedicated Dump File はメモリダンプの採取のみに使用され、仮想メモリとして使用されません。システム全体で十分な仮想メモリを確保できるようページングファイルを設定してください。

**システムパーティションサイズ
<64 ビット版の場合>**

Windows をインストールするパーティションサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 8,700MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 400MB
ハイバネーション用サイズ	= 搭載メモリサイズ × 1.5
アプリケーションサイズ	= 任意

例えば、搭載メモリサイズが 2GB(2,048MB)のとき、パーティションサイズは、前述の計算方法から

8,700MB + (2,048MB × 1.5) + 2,048MB + 400MB + (2,048MB × 1.5) +
アプリケーションサイズ = 17,292MB + アプリケーションサイズ

となります。

上記の計算方法から算出したサイズは、Windows のインストールに必要な最小限のサイズです。安定した運用のため、パーティションは余裕を持たせてインストールしてください。

20,480MB(20GB)以上のパーティションサイズを確保することを推奨します。
※1GB = 1,024MB



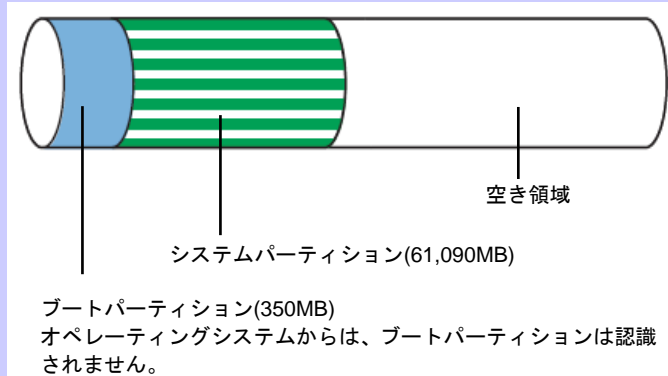
チェック

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。Windows パーティションには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できないときがあるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 搭載メモリサイズやデバッグ情報の書き込み(メモリダンプ種別)に関係なく、ダンプファイルサイズの最大は「搭載メモリサイズ + 400MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールするときは、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

Windows をインストールするパーティションのサイズが推奨サイズより小さい場合は、パーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。



新規にパーティションを作成するとき、指定されたパーティションサイズのうち、Windows OS がハードディスクドライブの先頭に 350MB をブートパーティションとして確保します。
例えば、パーティションサイズを 61,440MB(60GB)と指定したとき、使用可能な領域は
 $61,440\text{MB} - 350\text{MB} = 61,090\text{MB}$
となります。



システムパーティションサイズ <32 ビット版の場合>

Windows をインストールするパーティションサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 6,200MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 400MB
ハイバネーション用サイズ	= 搭載メモリサイズ × 1.5
アプリケーションサイズ	= 任意

例えば、搭載メモリサイズが 2 GB(2,048MB)のとき、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$6,200\text{MB} + (2,048\text{MB} \times 1.5) + 2,048\text{MB} + 400\text{MB} + (2,048\text{MB} \times 1.5) + \text{アプリケーションサイズ} = 14,792\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$

となります。

上記の計算方法から算出したサイズは、Windows のインストールに必要な最小限のパーティションサイズです。安定した運用のため、パーティションには、余裕を持たせてインストールしてください。

16,384MB(16GB)以上のパーティションサイズを確保することを推奨します。
※1GB = 1,024MB

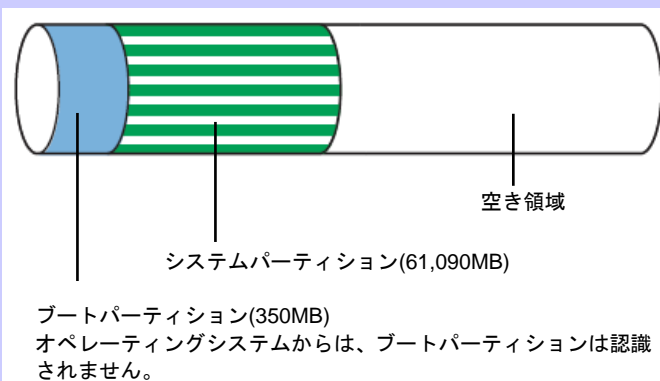


- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。Windows パーティションには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。
また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- メモリダンプ種別毎のダンプファイルサイズの最大は次のとおりです。
完全メモリダンプ：搭載メモリサイズ+400MB
カーネルメモリダンプ、自動メモリダンプ：2,048MB+400MB
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

Windows をインストールするパーティションのサイズが推奨サイズより小さい場合は、パーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。



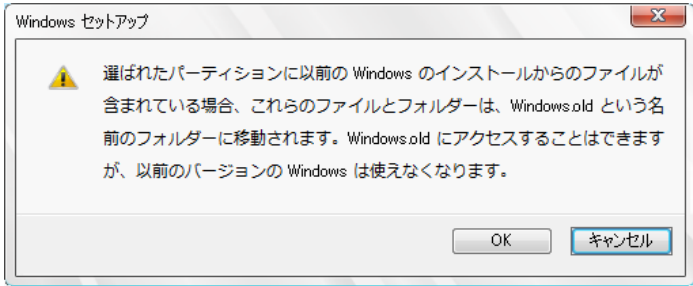

新規にパーティションを作成するとき、指定されたパーティションサイズのうち、Windows OS がハードディスクドライブの先頭に 350MB をブートパーティションとして確保します。
例えば、パーティションサイズを 61,440MB(60GB)と指定したとき、使用可能な領域は
 $61,440\text{MB} - 350\text{MB} = 61,090\text{MB}$
となります。



Windows 8 Hyper-V のサポート

Windows 8 Hyper-V のサポートに関する詳細情報は、下記を参照してください。

<http://support.express.nec.co.jp/os/win8/hyper-v.html>

パーティションの流用	<p>Windows 8 以外で作成したパーティションへ Windows 8 をインストールする場合、以下のメッセージが表示されます。</p> <p>このようなパーティションは流用できませんので新規に作成してください。</p> 
BitLocker の利用	<p>BitLocker をご利用になる場合、下記の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回復パスワードは、BitLocker を使用するサーバ以外の安全な場所に、必ず保存／保管してください。 <div data-bbox="603 835 667 898">  重要 </div> <div data-bbox="676 835 1425 1095" style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px;"> <p>回復パスワードがない場合、OS を起動させることができなくなり、BitLocker で暗号化したパーティションの内容を二度と参照できなくなります。</p> <p>回復パスワードは、次の作業実施後の OS 起動時に必要となる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> － マザーボードを交換した － TPM を初期化した － BIOS の設定を変更した </div> <ul style="list-style-type: none"> ● BitLocker で暗号化したパーティションに OS を再インストールする場合、あらかじめ BitLocker で暗号化したパーティションを削除してください。

4 Windows 8 のインストール

Windows 8 (64 ビット版 / 32 ビット版 共通)新規インストールの手順は次のとおりです。
※ 旧 OS への上書きインストール(インプレースアップグレード) は、サポートしていません。



新規インストール前に、本書の「3 インストール前の確認事項」を確認してください。

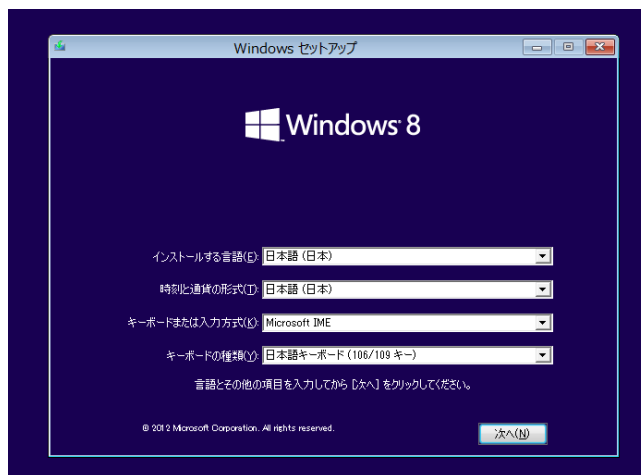
1. ディスプレイ、本機の順に電源を ON にします。
2. Windows 8 DVD-ROM を光ディスクドライブにセットします。
3. システムを再起動します。
<Ctrl> + <Alt> + キーを押すか電源を OFF/ON して、再起動してください。
4. OS インストールメディアから起動します。

画面の上部左側に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されます。
メディアからブートさせるため、<Enter>キーを押してください。

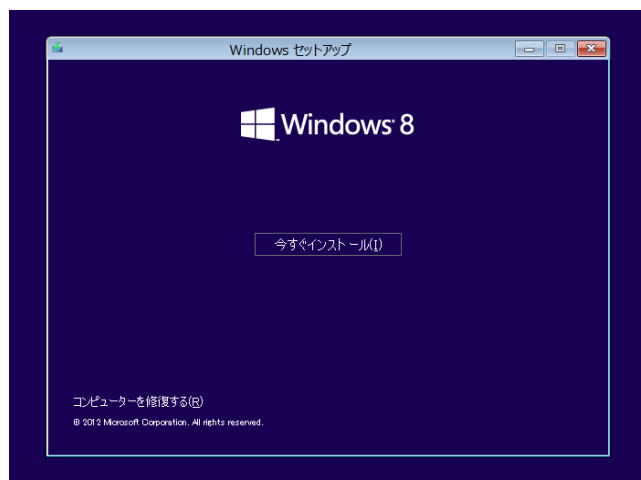


Windows セットアップ画面 (手順 5 の画面) が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。システムの電源を ON し直してから始めてください。

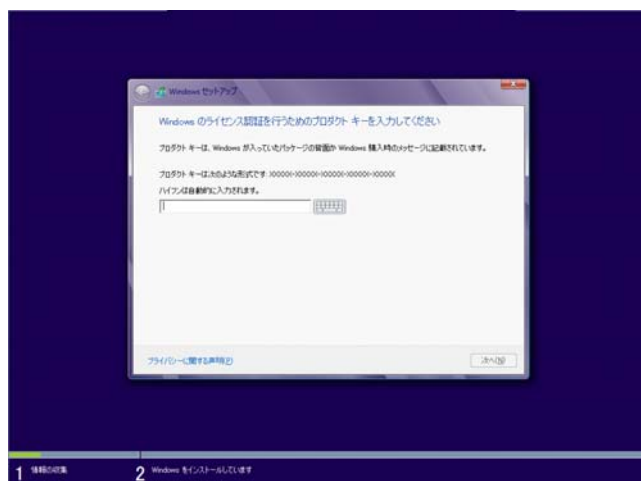
5. 言語とその他の項目を選択し[次へ]をクリックします。
ここでは、[日本語(日本)]を選択してください。



6. [今すぐインストール]をクリックします。
Windows のセットアップを開始します。



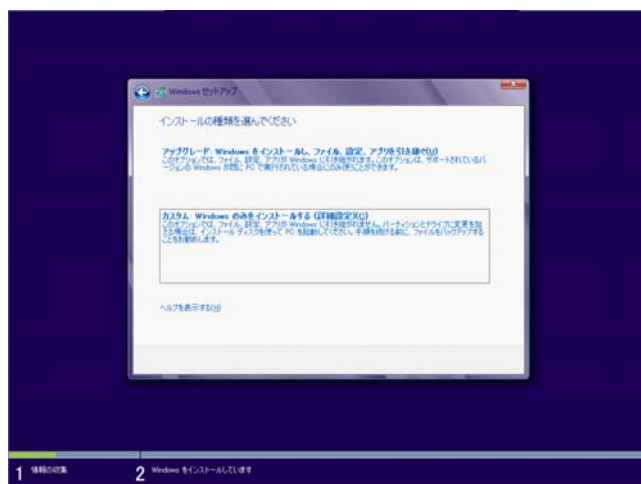
7. プロダクトキーの入力画面が表示されたら、プロダクトキーを入力し[次へ]をクリックします。



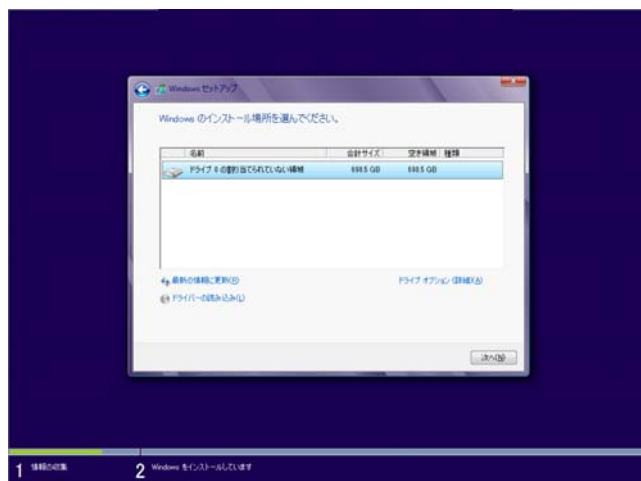
8. ライセンス条項の内容を確認します。
同意する場合は [同意します] をチェックし、[次へ]をクリックします。



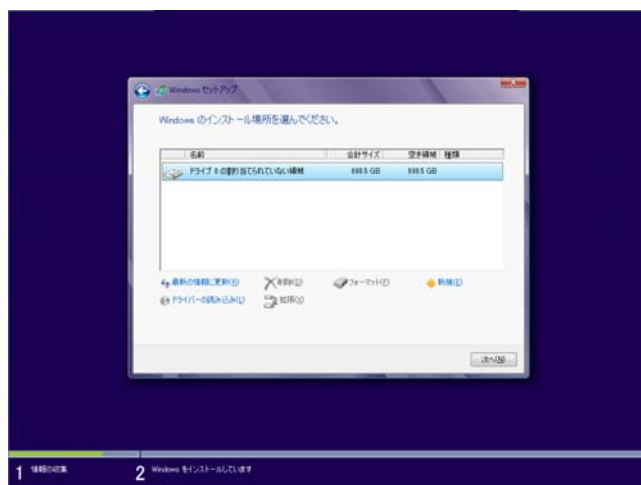
9. インストールの種類を選択します。
ここでは、[カスタム : Windows のみをインストールする(詳細設定)]をクリックします。



10. パーティションを作成するディスクを選択し、[ドライブオプション(詳細)]をクリックします。
パーティションが作成済みの場合は、手順 13 へ進んでください。

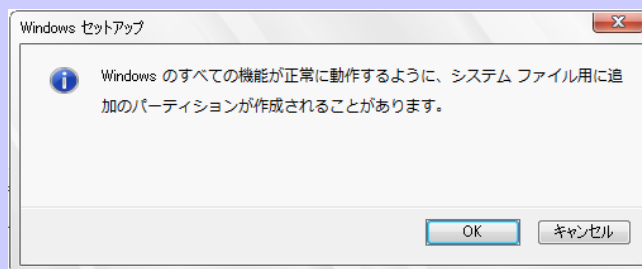


11. [新規]をクリックします。
サイズ入力ボックスにパーティションのサイズを入力し、[適用]をクリックします。



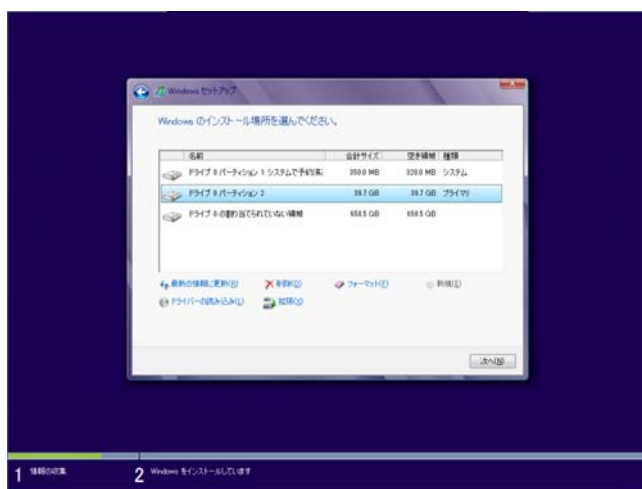


新規でパーティションを作成する場合、350MB のブートパーティションが作成されます。以下の画面が表示されたら、[OK] をクリックしてください。



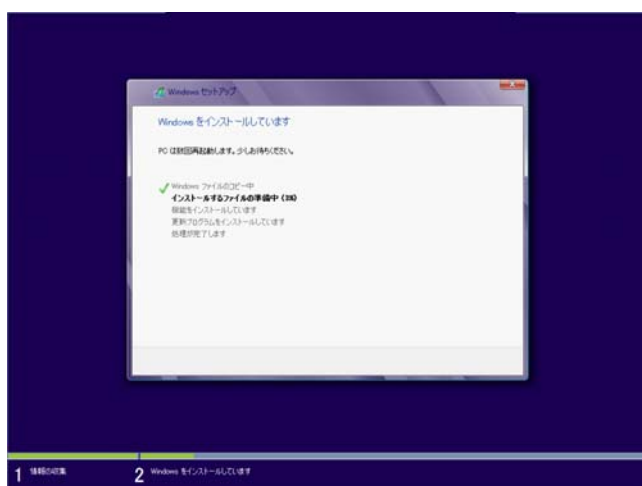
12. 手順 11 で作成したパーティションを選択し、[フォーマット]をクリックします。

13. 作成したパーティションを選択し、[次へ]をクリックします。



画面に表示されるパーティション数は、ご使用の環境によって異なります。

次のメッセージが表示され、自動で Windows のインストールが開始します。



Windows 8 のインストール後、自動で再起動します。
再起動後、引き続き Windows のセットアップを開始します。

14. パーソナル設定を行い、[次へ]をクリックします。



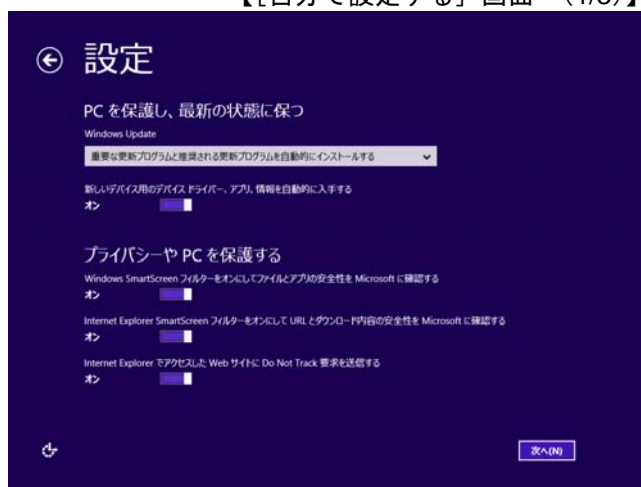
15. 設定内容を確認します。
ここでは、[簡単設定を使う]をクリックします。

【[簡単設定] 画面】



[自分で設定する]のときは、画面の項目を確認し設定してください。

【[自分で設定する] 画面 (1/3)】



【[自分で設定する] 画面 (2/3)】

【[自分で設定する] 画面 (3/3)】

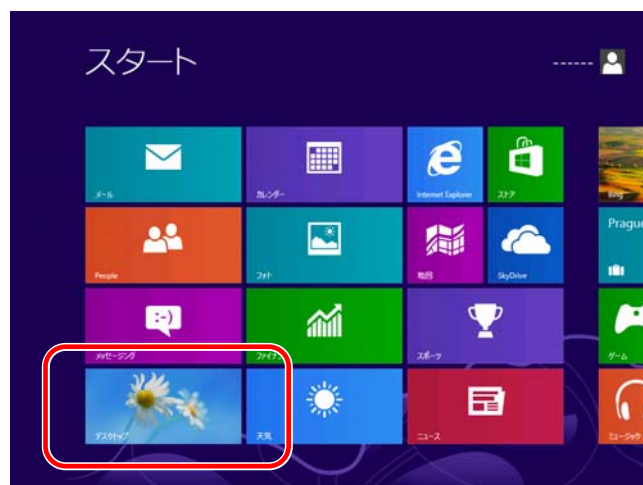
16. ユーザー名とパスワードを入力し、[完了]をクリックします。

ネットワークに接続してインストールしているときは、次の画面が表示されます。
内容を確認し、設定してください。



Windows 8 が起動します。

17. スタート画面にある[デスクトップ]をクリックします。



デスクトップ画面が表示されます。



-
18. 本書の「5 Starter Pack の適用」を参照し、Starter Pack を適用します。
 19. 本書の「6 AMT ドライバのインストール」を参照し、インストールします。
 20. 本書の「7 デバイスドライバのセットアップ」を参照し、ドライバのインストールと詳細設定をします。
 21. 本書の「8 ライセンス認証の手続き」を参照し、ライセンス認証済みか確認します。
 22. 本書の「9 障害処理のためのセットアップ」を参照し、セットアップします。

以上で、セットアップは完了です。

5 Starter Pack の適用

Starter Pack には本製品向けにカスタマイズされたドライバなどが含まれています。

システム運用前に、**対象モデル専用の Windows 8 Pro 対応 差分モジュール(Starter Pack)** を適用してください。対象モデル以外では使用できません。

Starter Pack をダウンロードしていない場合は、本書の「2 インストール前の準備」－「■ダウンロードについて」を参照してください。



次の場合も必ず「Starter Pack」を適用してください。

- － システム構成を変更した場合
(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、Starter Pack を適用してください。)
- － 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- － バックアップツールを使用してシステムをリストアした場合



本機能を使ってセットアップすると、Scalable Networking Pack(SNP)機能は「無効」に設定されます。

SNP 機能を有効にするときは、下記サイトを確認した上で設定してください。

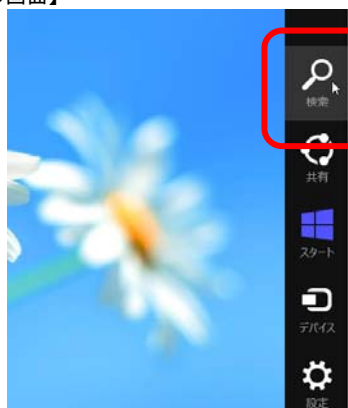
<http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/snp.html>

1. **管理者権限のあるアカウント**で、本機にインストール済みの Windows へサインインします。

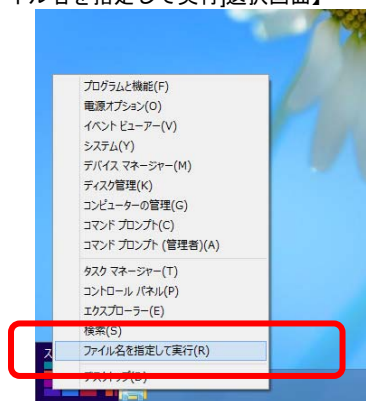
Starter Pack を DVD にコピーして使用する場合は、光ディスクドライブにセットします。

2. チャームから[検索]をクリックします。
(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。)

【[検索]の画面】



【[ファイル名を指定して実行]選択画面】

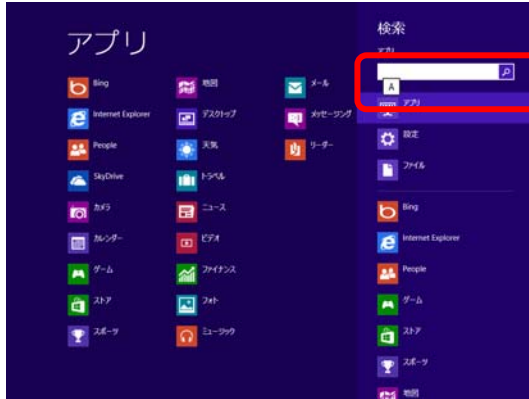


3. 以下を入力し<Enter>キーを押します。

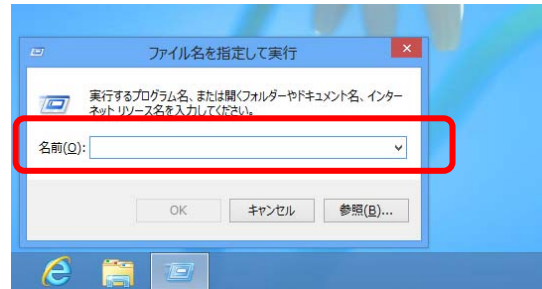
<ドライブレター>¥winnt¥bin¥pkgsetup.vbs

このとき指定するパスは2バイト文字や空白文字(スペース)を、フォルダ名などに入力しないでください。

【[検索]の画面】

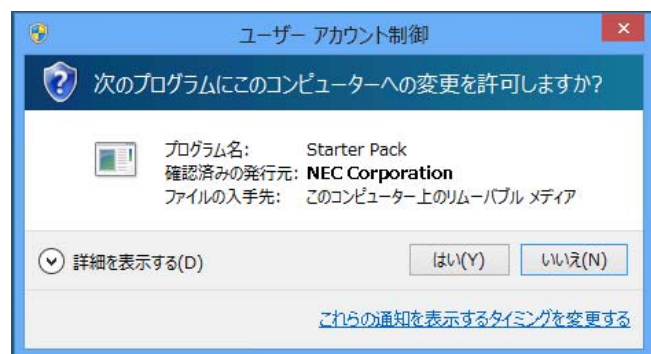


【[ファイル名を指定して実行]の画面】

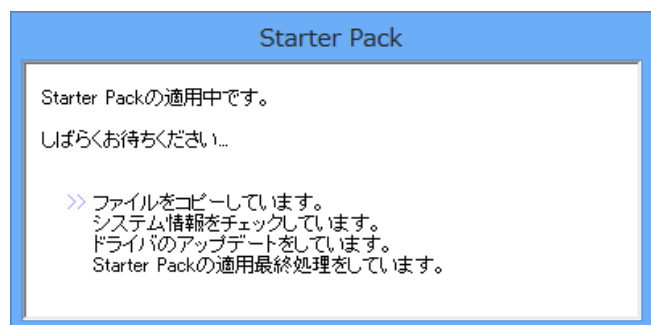


例えば D ドライブの temp フォルダに Starter Pack があるとき、
「D:¥temp¥winnt¥bin¥pkgsetup.vbs」と入力し、<Enter>キーを押します。

4. プログラム名、確認済みの発行元を確認し、[はい]をクリックします。



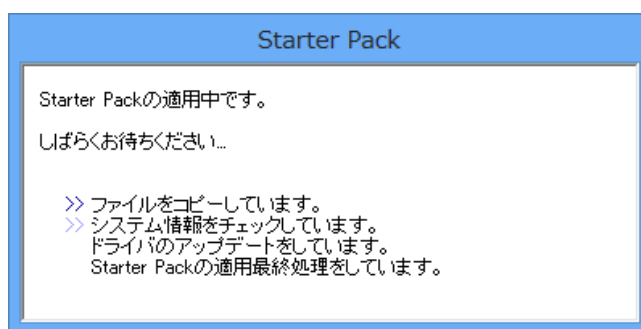
Starter Pack 適用中は次の進捗メッセージが表示されます。
ファイルのコピーが完了するまで、しばらくお待ちください(1~3 分程度)。



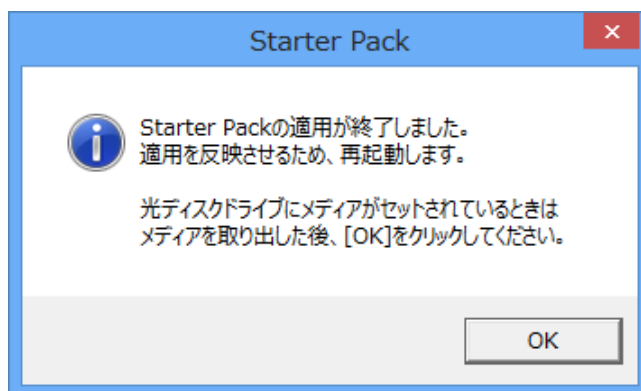
5. 次の画面ではメッセージの内容を確認し、[OK]をクリックします。
「Starter Pack」が適用されます。



Starter Pack 適用中は次の進捗メッセージが表示されます。
途中画面がちらついたりすることがありますが、適用が完了するまで、しばらくお待ちください。



6. 次のメッセージが表示されたら、Starter Pack の適用は完了です。



Starter Pack を DVD などにコピーして使用した場合は、メッセージにしたがって、メディアを取り出してください。

7. [OK]をクリックして再起動します。

以上で、Starter Pack の適用は完了です。

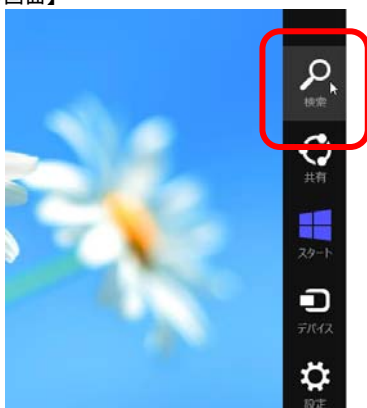
6 AMT ドライバのインストール

Windows 8 をインストールし「Starter Pack の適用」を実施した後、必ず AMT ドライバをインストールしてください。

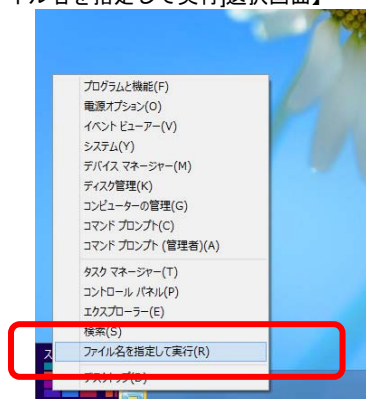
■ Express5800/55Xa, Y55Xa の場合

1. 本機にインストール済みの Windows へ**管理者権限のあるアカウント**で、サインインします。
Starter Pack を DVD にコピーして使用する場合は、光ディスクドライブにセットします。
2. チャームから[検索]をクリックします。
(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。)

【[検索]の画面】



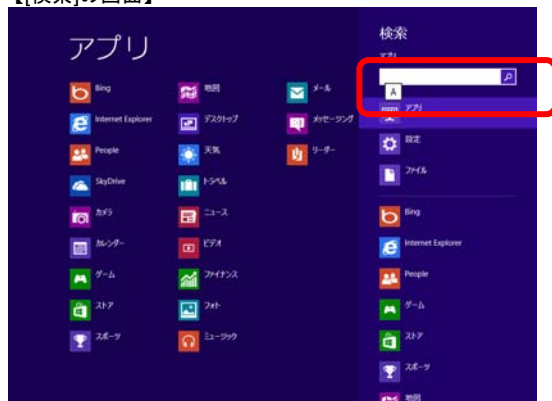
【[ファイル名を指定して実行]選択画面】



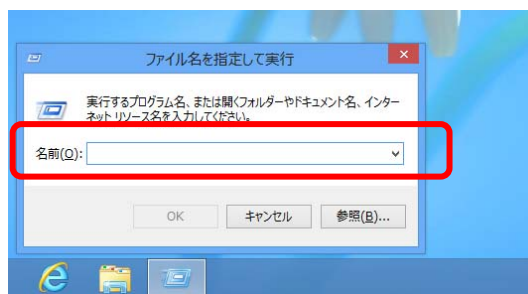
3. 以下を入力し、<Enter>キーを押します。

- 64 ビット版
<ドライブレター>: %winnt%\win8x64\amt\setup.exe
- 32 ビット版
<ドライブレター>: %winnt%\win8\amt\setup.exe

【[検索]の画面】



【[ファイル名を指定して実行]の画面】



例えば D ドライブの temp フォルダに Starter Pack があるとき、64 ビット版の場合は「D:\temp\%winnt%\win8x64\amt\setup.exe」と入力し、<Enter>キーを押します。

4. プログラム名、確認済みの発行元を確認し、[はい]をクリックします。



5. 次の画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。



6. ライセンス条項の内容を確認し、同意する場合は[はい]をクリックします。



7. Readme ファイルの情報を確認し、[次へ]をクリックします。
AMT ドライバのインストールが実行されます。



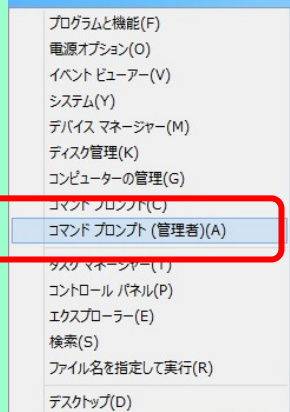
8. ドライバのインストール中に[.NET Framework 3.5]をダウンロードしインストールするようにメッセージが表示されますが、[このインストールをスキップする]をクリックしてドライバのインストールを続行してください。



[.NET Framework 3.5] のインストール要求のメッセージは、[Intel Management and Security Status]をインストールした環境で [.NET Framework 3.5] をインストールしていない Windows 8 を起動すると毎回表示されます。表示されたときは、インターネットに接続のうえ、Microsoft ダウンロードセンターより [.NET Framework 3.5] をダウンロードしインストールするか、[このインストールをスキップする]をクリックしメッセージを閉じるようにしてください。

インターネット接続ができない場合でも、Windows 8 のインストールメディア(ISO イメージや DVD)を使用することで、[.NET Framework 3.5] を有効にすることが可能です。オフラインで有効にしたい場合、以下を参照し有効にしてください。

1. Windows 8 のインストール メディアを準備し、光ディスクドライブへセットします。
2. 管理者特権のコマンド プロンプトを起動します。
管理者特権のコマンド プロンプトは画面左下隅を右クリックし [コマンド プロンプト(管理者)] をクリックします。



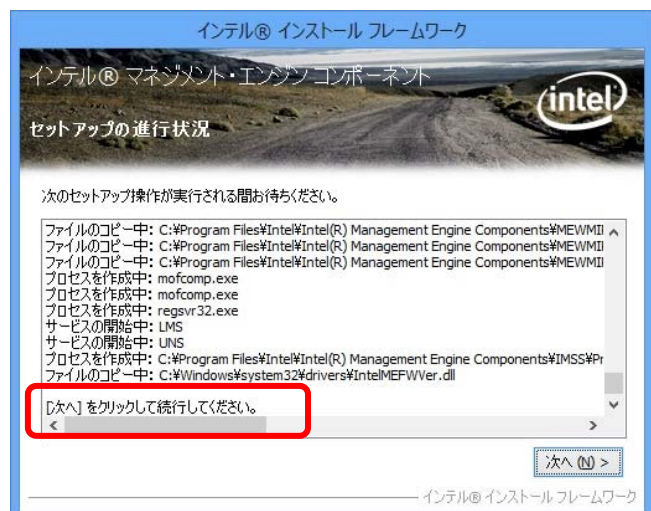
3. 管理者特権のコマンド プロンプトを起動後、次のコマンドを入力します。

Dism /online /enable-feature /featurename:NetFx3 /All /Source:<ドライブレター>:%sources%sxs /LimitAccess

<ドライブレター>: は Windows 8 の ISO イメージや DVD のドライブレターです。例えばドライブレターが D ドライブであれば、<ドライブレター>のところへ D と入力してください。

4. コマンド実行後、「操作は正常に完了しました。」のメッセージが表示されれば完了です。

9. “[次へ]をクリックして続行してください。”のメッセージが表示されたら、[次へ]をクリックします。



10. [完了]をクリックして、セットアッププログラムを終了します。



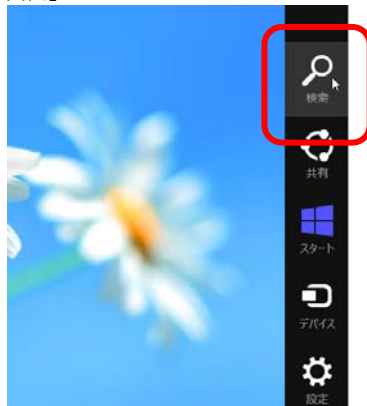
以上で、AMT ドライバのインストールは完了です。

■ Express5800/53Xh, Y53Xh, 51Eb, Y51Eb の場合

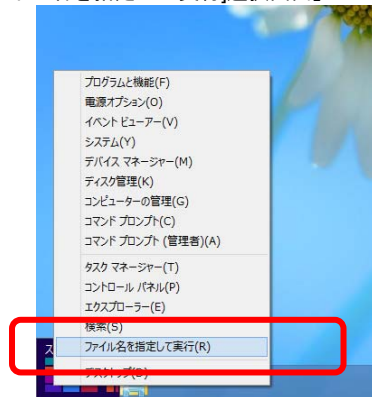
Starter Pack 適用時に AMT ドライバのインストールプログラムに含まれる Recovery Agent は自動でインストールされません。そのため、お客様の使用する環境において必要な場合には、次の手順を参照し差分モジュール(Starter Pack) 内にある Recovery Agent をインストールしてください。

1. 本機にインストール済みの Windows へ**管理者権限のあるアカウント**で、サインインします。
Starter Pack を DVD にコピーして使用する場合は、光ディスクドライブにセットする。
2. チャームから[検索]をクリックします。
(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。)

【[検索]の画面】



【[ファイル名を指定して実行]選択画面】



3. 以下を入力し、<Enter>キーを押します。

- 64 ビット版

<ドライブレター>:

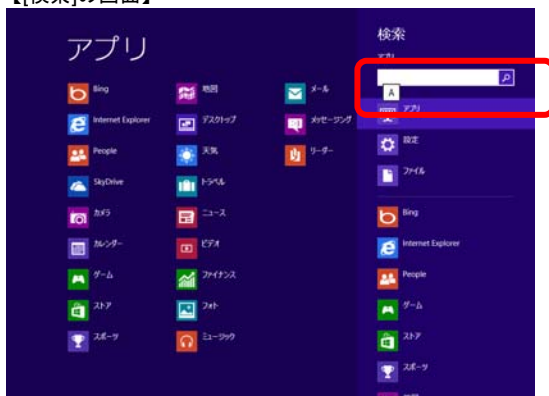
¥winnt¥win8x64¥amt_a¥Firmware Recovery Agent¥Updateagent-setup.msi

- 32 ビット版

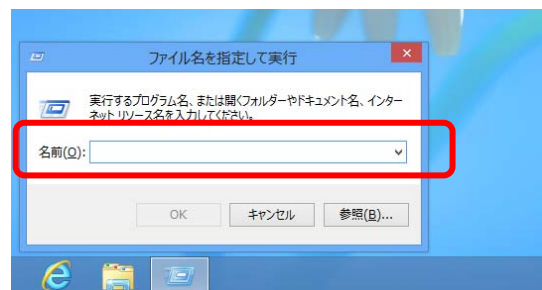
<ドライブレター>:

¥winnt¥win8¥amt_a¥Firmware Recovery Agent¥Updateagent-setup.msi

【[検索]の画面】



【[ファイル名を指定して実行]の画面】



例えば D ドライブの temp フォルダに Starter Pack があるとき、
64 ビット版の場合は「D:¥temp¥winnt¥win8x64¥amt_a¥Firmware
Recovery Agent¥Updateagent-setup.msi」と入力し、<Enter>キーを押しま
す。

4. プログラム名、確認済みの発行元を確認し、[はい]をクリックします。



5. 次の画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。



6. ライセンス条項の内容を確認し、同意する場合は[使用許諾契約書に同意します]にチェックを入れ[次へ]をクリックします。



7. 次の画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
デスクトップ上に Firmware Recovery Agent のショートカットが不要な場合はチェックボックスのチェックを外してから[次へ]をクリックしてください。



8. インストールが実行されます。



9. [完了]をクリックして、セットアッププログラムを終了します。



以上で、Firmware Recovery Agent のインストールは完了です。

7 デバイスドライバのセットアップ

必要に応じて各種ドライバのインストールとセットアップを行います。

ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについては、ドライバに添付の説明書を参照してください。

■ LAN ドライバ

標準装備の LAN ドライバは、Starter Pack を適用するとインストールされます。

システムの修復や再セットアップの際は、Starter Pack を適用してください。



ネットワークアダプタのチーミング機能はサポートしておりません。



- LAN ドライバに関する操作は、必ず本機に接続されたコンソールから管理者 (Administrator など) 権限でサインインした状態で実施してください。OS のリモートデスクトップ機能、または、その他の遠隔操作ツールを使用しての作業はサポートしておりません。
- IP アドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてから IP アドレスの設定をしてください。

○ ネットワークアダプタ名

標準装備のネットワークアダプタのアダプタ名は、下記のようになります。

ー標準装備のネットワークアダプタ

- ・ Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection
- ・ Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection

※ Express5800/51Eb,Y51Eb の場合、Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection は、標準装備していません。

○ LAN ドライバの設定

以下の手順を参照し、転送速度とデュプレックスモードを設定してください。

1. [デバイスマネージャ]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、設定するネットワークアダプタをダブルクリックしプロパティを表示します。
3. [詳細設定]タブを選択し、[速度とデュプレックス]をスイッチングハブの設定値と同じ値に設定します。
4. [OK]をクリックし、システムを再起動します。

以上で完了です。

またネットワークの負荷状態により、標準装備のネットワークアダプタ(82579LM)の送受信処理が停止する場合があります。以下のパラメータ調整によって回避できます。

1. [デバイスマネージャ]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、[Intel(R) 82579LM]をダブルクリックしプロパティを表示します。
3. [詳細設定]タブを選択し、[フロー制御]を選択します。
4. 値を[オフ](推奨値)、[受信 有効]、[送信 有効]のいずれかに設定します。

5. [OK]をクリックし、システムを再起動します。

以上で完了です。

○ Wake On LAN の設定

以下の手順を参照し、Wake On LAN を設定してください。



- Wake On LAN は標準のネットワークアダプタのみサポートします。
- 標準装備のネットワークアダプタ(82579LM)を使用して休止/スリープ状態からの Wake On LAN はサポートしていません。休止/スリープ状態からの Wake On LAN の初期値は無効です。有効に設定変更をしないでください。



設定は手動で設定し直さない限り保持されます。

1. [コントロールパネル]から[システムとセキュリティ] - [電源オプション] - [電源ボタンの動作の選択]へ進みます。
2. [システム設定] - [シャットダウン設定] - [高速スタートアップを有効にする]をオフにします。



[高速スタートアップを有効にする]が表示されていない場合は、高速スタートアップはオフに設定されています。

3. [デバイスマネージャー]を起動します。
4. [ネットワークアダプター]を展開し、設定するネットワークアダプターをダブルクリックしプロパティを表示します。
5. [詳細設定]タブを選択し、[PME をオンにする]の値を「オン」に設定します。
6. [OK]をクリックし、再起動します。

以上で完了です。

■ グラフィックスアクセラレータドライバ

オプションのグラフィックスアクセラレータボードのグラフィックスドライバを『NEC コーポレートサイト』<http://jpn.nec.com/> よりダウンロードして、グラフィックスドライバをインストールしてください。

■ サウンドドライバ

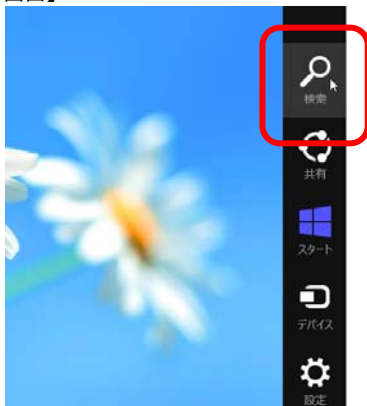
標準装備のサウンドドライバは、Starter Pack を適用するとインストールされます。システムの修復や再セットアップの際は、Starter Pack を適用して下さい。

8 ライセンス認証の手続き

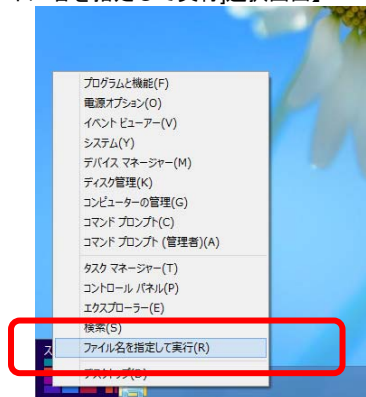
Windows 8 を使用するには、ライセンス認証の手続きが必要です。必ず認証の手続きを行ってください。次の手順でライセンス認証済みか確認します。

1. チャームから[検索]をクリックします。
(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。)

【[検索]の画面】

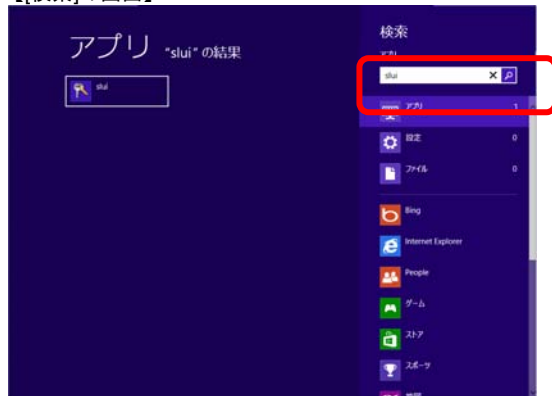


【[ファイル名を指定して実行]選択画面】

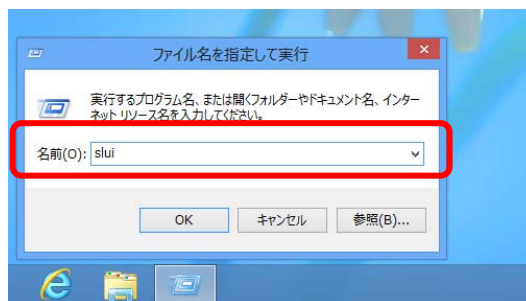


2. 検索で「slui」と入力して<Enter>キーを押します。

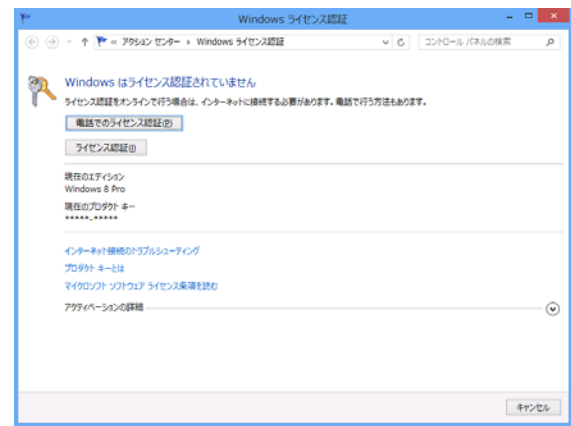
【[検索]の画面】



【[ファイル名を指定して実行]の画面】



3. 次の内容を確認し、ライセンス認証の手続きを行います。



ライセンス認証済みのときは、手続きの必要はありません。

以上で、ライセンス認証の手続きは完了です。

9 障害処理のためのセットアップ

運用上問題などが起きたとき、より早く、確実に復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしてください。

■ メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

メモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

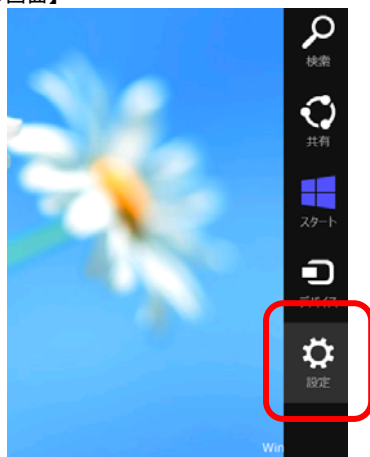


- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがあります。この場合、そのまま起動してください。リセットや再起動すると、メモリダンプを正しく保存できないことがあります。

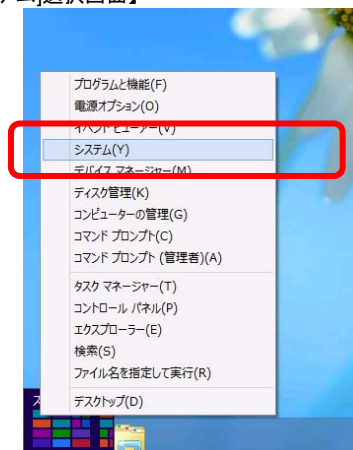
次の手順にしたがって設定します。

- チャームから[設定]をクリックします。
(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[システム]をクリックすると手順5の画面が表示されます。)

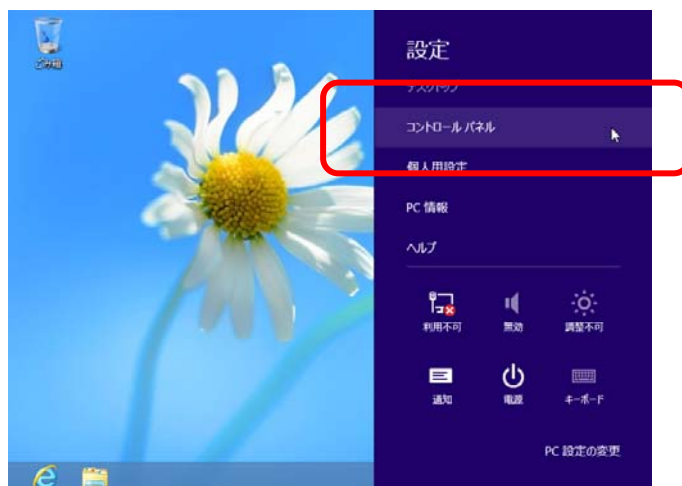
【[設定]の画面】



【[システム]選択画面】



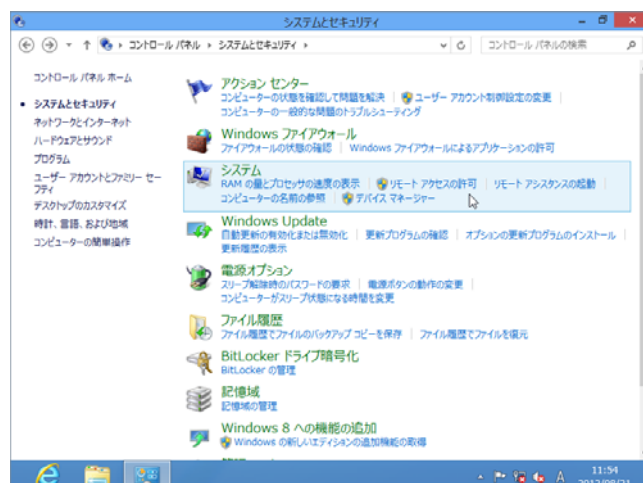
- 設定の[コントロールパネル]をクリックします。



3. コントロールパネルから[システムとセキュリティ]をクリックします。



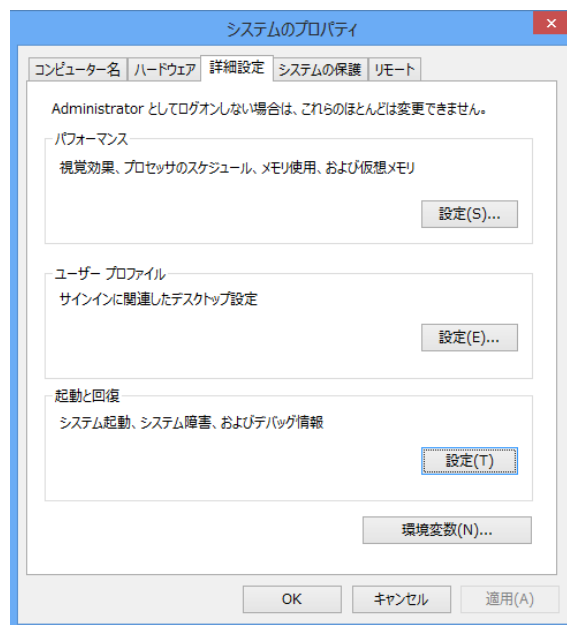
4. システムとセキュリティから[システム]をクリックします。



5. システムから[システムの詳細設定]をクリックします。
システムのプロパティが表示されます。

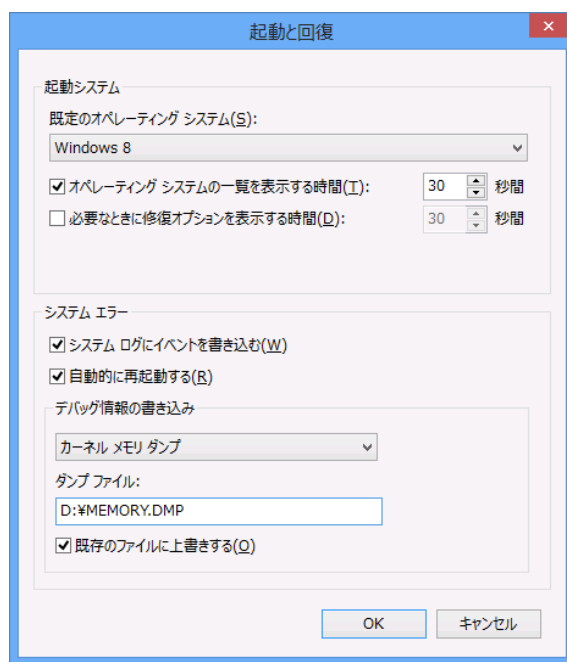


6. [起動と回復]の[設定]をクリックします。



7. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックします。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

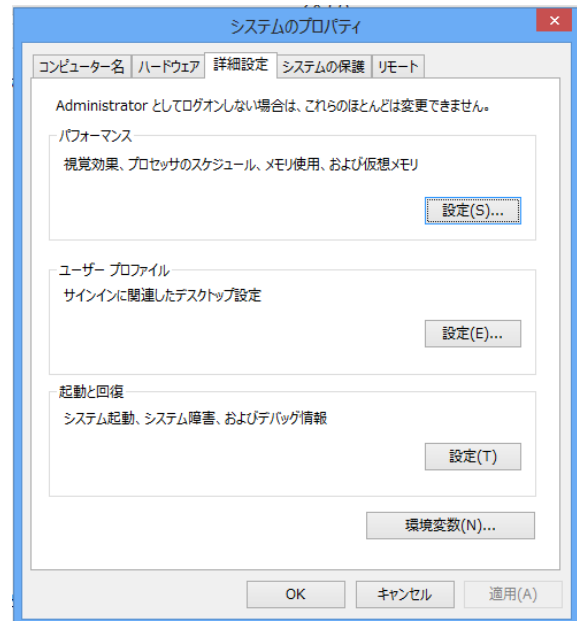


ダンプファイルについては、以下について注意のうえ設定してください。

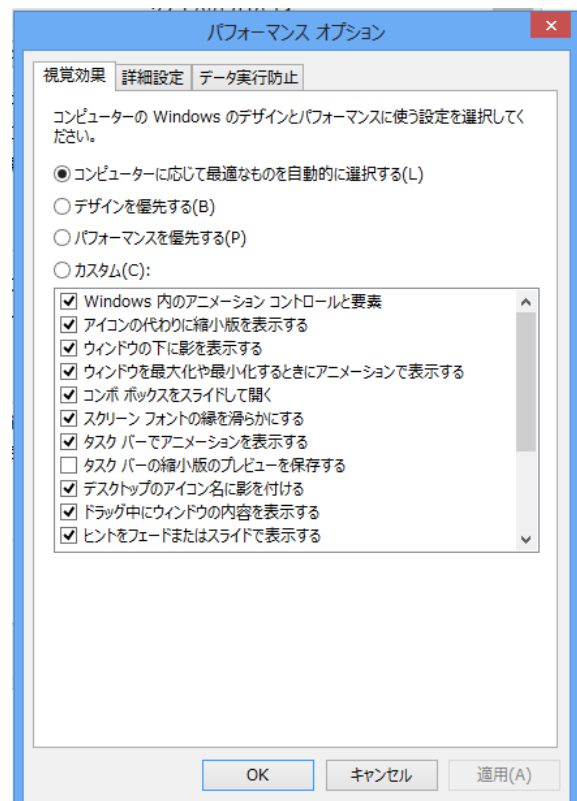
- 「デバッグ情報の書き込み」は[カーネルメモリダンプ]を指定することを推奨します。
 - 搭載しているメモリサイズ + 400MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- Windows 8 Pro 32 ビット版で[カーネルメモリダンプ]を指定しており、メモリサイズが 2GB を超える場合は、2,048MB + 400MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。

- ワークグループ環境の場合は、25 GB 以上の空き容量があるドライブを指定してください。
- メモリを増設すると、採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ)のサイズが変わります。増設時は、ダンプファイルの書き込み先の空き容量も確認してください。

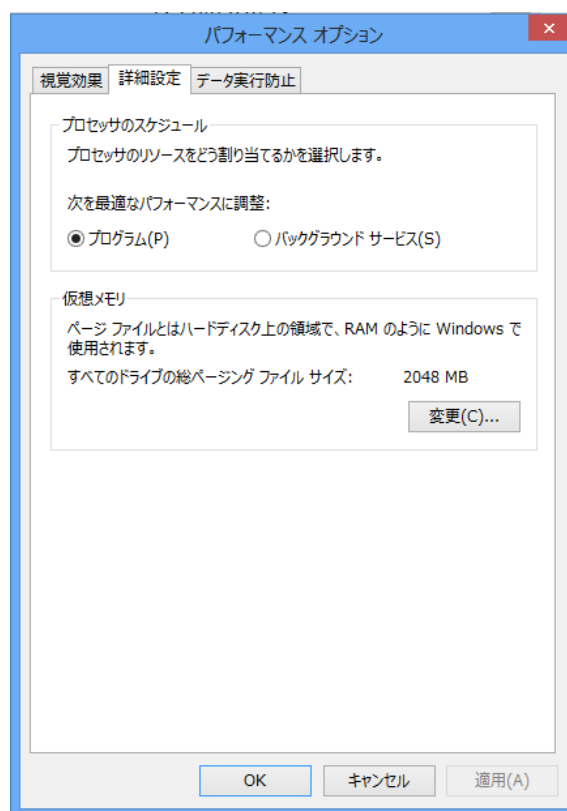
8. [パフォーマンス]の[設定]をクリックします。
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



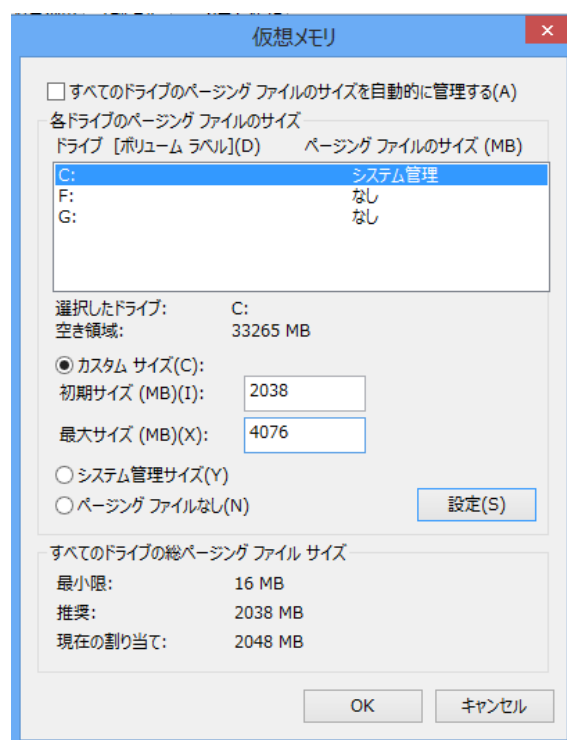
9. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックします。



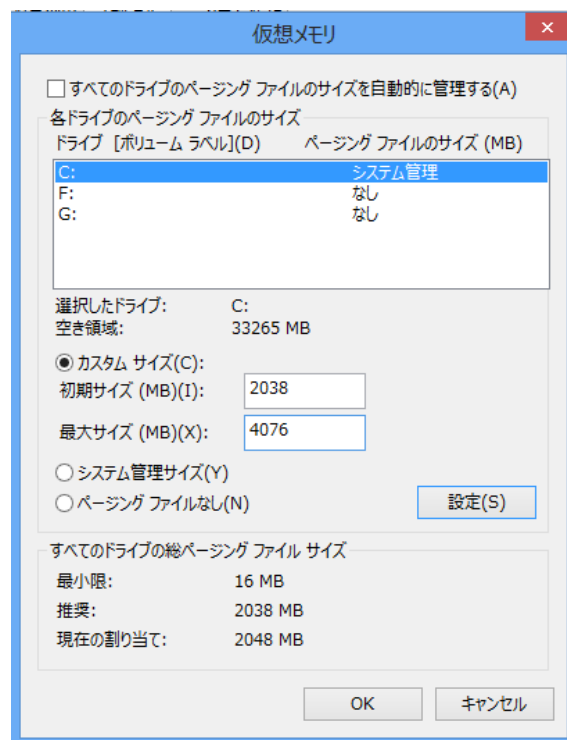
10. [仮想メモリ]の[変更]をクリックします。



11. [すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する]のチェックを外し、[カスタムサイズ]にチェックをします。



12. [各ドライブのページングファイルのサイズ]の[初期サイズ]を推奨値以上に、[最大サイズ]を[初期サイズ]以上に変更し、[設定]をクリックします。



ページングファイルについては、以下について注意のうえ設定してください。

- ページングファイルはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のために利用されます。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズ(搭載物理メモリサイズ + 400MB 以上)を持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズ(搭載物理メモリサイズ × 1.5 以上を推奨します)を設定してください。
- 「推奨値」については、本書の「セットアップ前の確認事項」の「システムパーティションのサイズ」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

13. [OK]をクリックします。

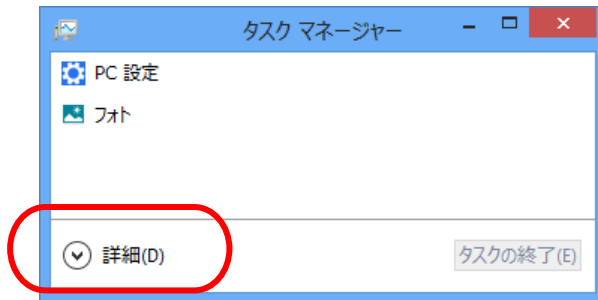
変更によっては Windows を再起動するようメッセージが表示されます。メッセージにしたがって再起動してください。

以上で完了です。

■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。アプリケーションエラーが発生したときは、エラーのポップアップを終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

1. 画面の左下隅を右クリックして[タスク マネージャー]をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc>キーを押して[タスク マネージャー]を起動します。
2. [詳細]をクリックします。



3. [プロセス]タブをクリックします。
4. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプ ファイルの作成]をクリックします。
5. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。
C:¥Users¥(ユーザー名)¥AppData¥Local¥Temp



上記のフォルダは隠し属性となっている場合があります。フォルダが表示されない場合は、エクスプローラの[表示]から[隠しファイル]をチェックしてください。



ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記 5 のフォルダより取得してください。

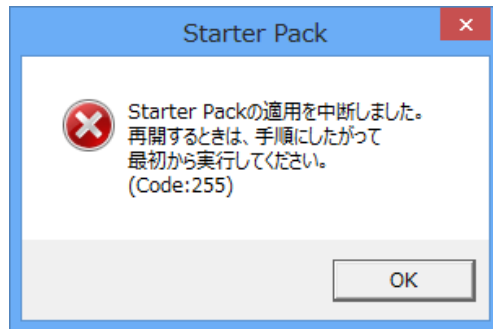
以上で完了です。

10 トラブルシューティング

本機が思うように動作しないときは、修理に出す前に次のチェックリストを参照し、本機をチェックしてください。リストに該当するような項目があるときは、記載の対処方法を試してみてください。
なお、ここであげている症状は Windows 8 をインストールしたときに発生する可能性があるものです。本書に記載していないその他の症状につきましては、お手持ちのドキュメントを参照してください。



Starter Pack を適用するときに、以下のメッセージが表示され中断する



- Starter Pack を実行するフォルダパスに2バイト文字や空白文字(スペース)が含まれていませんか?
 - Starter Pack を実行するフォルダパスに2バイト文字や空白文字(スペース)を指定できません。フォルダ名を変更し、適用しなおしてください。

例 : D:¥temp¥winnt¥bin¥pkgsetup.vbs



電源が ON にならない

- 高速スタートアップが有効になっていませんか?
 - リモートパワーオン機能を使っている場合、高速スタートアップが有効状態で OS からのシャットダウンにて電源を OFF にしたときは、以下の機能をご利用いただくことはできません。

以下の機能をご利用いただくためには、高速スタートアップを無効にしてください。

- ・ Wake On LAN/PME
- ・ Wake On Ring
- ・ Wake On RTC Alarm



複数ディスクを接続した環境で Windows 8 を再インストール後、以前作成していたパーティションにアクセスできない

- 詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。
<http://support.microsoft.com/kb/2497048/ja>



複数ディスクを接続した環境で Windows 8 をインストールすると、システムパーティションとブートパーティション(350MB の先頭領域)が別のディスクに作成されるときがある

- 詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。
<http://support.microsoft.com/kb/2530901/ja>

11 Windows イベントログ一覧

OS

■ ログ

ID	ソース	種類	メッセージ（説明）
	タイミング		対応

Windows 8

■ システムログ

4	HECI (64ビットの場合は HECIx64)	警告	The Intel(R) Management Engine Interface is being disabled.
	Starter Pack 適用時		ID 4が登録された後、以下のイベントログが登録されていれば問題ありません。 ログの名前 : System ソース : HECI (64ビットの場合は HECIx64) イベントID : 2 レベル : 情報 説明 : Intel(R) Management Engine Interface driver has started successfully.
27	e1cexpress	警告	Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection ネットワーク・リンクが切断されました。
	Starter Pack 適用時、システム起動時		Starter Pack 適用時、システム起動時に記録される場合、システム動作上問題ありません。
27	e1iexpress	警告	Intel(R) xxxxx Gigabit Network Connection Network link is disconnected.
	OS インストール時、OS 初回起動時、 Starter Pack 適用時		OS インストール時、OS 初回起動時または Starter Pack 適用中に登録される場合は、問題ありません。
27	e1qexpress	警告	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection ネットワーク・リンクが切断されました。
	Starter Pack 適用時、システム起動時		Starter Pack 適用時、再起動時に記録される場合、システム動作上問題ありません。
46	volmgr	エラー	クラッシュ ダンプを初期化できませんでした。
	OS インストール時		詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/2756313
134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15 分後に再試行し、それ以降は 2 倍の間隔で再試行します。エラー: そのようなホストは不明です。(0x80072AF9)
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	Network List Service サービスは、次のエラーで終了しました: デバイスの準備ができていません。
	OS インストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。

7023	Service Control Manager	エラー	IP Helper サービスは、次のエラーで終了しました: 指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。
	OS インストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
10010	Microsoft-Windows-DistributedCOM	エラー	サーバー {XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX} は、必要なタイムアウト期間内に DCOM に登録しませんでした。
	OS インストール時、システム運用時		詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/956479/ja

■ アプリケーションログ

63	Microsoft-Windows-WMI	警告	プロバイダー IntelMEProv は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root\Intel_ME に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダーがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。
	Starter Pack 適用時		システム運用上問題ありません。
1008	Microsoft-Windows-Search	警告	Windows Search サービスが開始し、古い検索インデックスを削除しようとしています {理由: インデックスの完全リセット}。
	OS インストール時、システム運用時		このイベントログが頻繁に発生している状況でない限り、システムの運用上問題ありません。
1530	Microsoft-Windows-User Profiles Service	警告	レジストリ ファイルは他のアプリケーションまたはサービスで使用されています。ファイルはすぐにアンロードされます。レジストリ ファイルを保持しているアプリケーションまたはサービスはこれ以降正しく機能しない可能性があります
	Starter Pack 適用時		Windows のサインインが出来ないなどの影響がない限り、システム運用上問題ありません。
6005	Microsoft-Windows-Winlogon	警告	winlogon 通知サブスクリイパー <AUInstallAgent> による通知イベント (StartShell) の処理に長い時間がかかっています。
	OS インストール時、システム運用時		このイベントログが頻繁に発生している状況でない限り、システムの運用上問題ありません。
6006	Microsoft-Windows-Winlogon	警告	winlogon 通知サブスクリイパー <AUInstallAgent> で通知イベント (StartShell) の処理に 88 秒かかりました。
	OS インストール時、システム運用時		このイベントログが頻繁に発生している状況でない限り、システムの運用上問題ありません。
8198	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス認証 (slui.exe) が失敗しました。エラー コード: hr=0x80070057
	OS インストール時、システム運用時		ライセンス認証後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/921471/ja

■ アプリケーションとサービス ログ

104	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	エラー	DSM サービスを開始できませんでした。結果=0x800706B5
	OS インストール時、システム運用時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
200	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update サービスへの接続を確立できませんでした。
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
201	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Metadata and Internet Services (WMIS) への接続を確立できませんでした。
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
202	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	ネットワーク リスト マネージャーは、インターネットに接続していないことをレポートしています。
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。